

平成 29 年度 大阪府立泉大津高等学校学校協議会（第 2 回） 議事録

日 時：平成29年11月20日（月） 14:00～15:30

場 所：応接室

出席者：水野会長、浦西委員、安岡委員、校長、教頭、事務長、前田首席、林首席

報告「平成 29 年度学校経営計画の進捗状況について」

（１）確かな学力の育成を図りながら、進路実現をめざす取組みの推進

- ・授業アンケートは横ばい。子どもとのやりとりや子どもに考えさせる取組が随所に入っている授業は、比較的评价が高めになっている。
- ・ビジネス情報コースでは、体験的な学びを取り入れるという観点から、泉大津市と連携して「おづみん」のプロモーションをするという新しい取組みを行った。

（２）「高い志」や「将来の夢」を実現する指導体制の再構築

- ・トータルキャリアプランの内容について、身につけさせたい力、生徒の進路状況、理解度等を含めて研究しながらブラッシュアップしていく必要がある。
- ・進路個人カードは、さらに有効に活用する方法を研究している。

（３）豊かな心の育みと自主性および規範意識の育成

- ・部活動加入率が５割に満たないところ、遅刻が約10%増加しているところは気になっている。
- ・泉大津警察と連携して行っていた薬物ブロッカーズの活動は休止し、学校全体の取組にしていくために内容を改変した。

（４）総合的な学校力の向上

- ・教員構成を経験年数で見ると偏りがある。数年後、経験豊富な教員が大幅に減少し、若い層が学校を担うことになる。学校としての指導体制を整えていくことが課題。初任者研修や経験者研修受講者について校内でも研修を進めているところ。
- ・校長ブログは、写真が中心であるが、中学生にも高校の様子がわかってもらえる有効な手段であると考えている。

授業見学

協議

（１）気になる点

- ・遅刻の増加が気になる。何とか減らしていただきたい。
- ・３年生で進路が決まった生徒と進路未定の生徒のモチベーションの差をどうするか。大阪府全体の問題。例えば、茨城県の公立高校は３月末まで授業を行っている。12月以降も周囲に影響されないで頑張れる環境を作るためには、抜本的な改革が必要なのかもしれない。

（２）部活動のあり方

- ・最近の子どもたちの興味のあり方が以前とは異なる。バレーボールやバスケットボールのような伝統的な部活だけではなく、文化系もメディアとかアナウンス等、子どもたちのニーズに合わせて少しずつ工夫していく必要がある。
- ・「アルバイトをしても部活動ができる」というシステムが必要。

- ・「部活動でしかできないこと」と「アルバイトでしかできないこと」があるが、社会に出るときや大学に進学するときには、アルバイトだけではダメ。
- ・文化部も含めて近隣の高校との連携も考える。各校では少数で活動が難しくても、連携によって活動の幅が広がるのではないかな。
- ・現在の枠組みにとらわれないこと。
- ・外部で活動しているのを学校にうまく取り込み、生徒のタレント性を発掘・評価することも大切。

(3) 学校のよさをどうアピールするか

①「ビジネス情報コース」

- ・ビジネス情報コースに求められるものが変わっていくのではないかな。専門学校でもプログラミングやゲーム制作などに力を入れ始めている。
- ・資格試験の時期等も含め、これから有効な資格の取得や中学生が選んでくれる内容を検討していくことが必要。

②「広報について」

- ・学校説明会に人を呼ぶ工夫を。
- ・学校は古いがよく清掃されている。生徒の様子がうかがえる。これは一つの価値。古さをうまくアピールすることを考えてみてはどうか。
- ・他校の説明会と日が重なって参加できないこともある。
- ・学校見学会の参加と入学者との関連性はどうかな。泉大津高校を選ぶのはどのような理由かな。そのあたりの分析も必要。
- ・HPやブログの更新は有効な手段である。頻繁に更新することが大切。保護者にも学校のことがよく伝わる。
- ・私立高校の無償化やアピールのうまさは公立高校にとって厳しい。だが、公立の良さ、競合する他校と違う良さや特徴をアピールすることが必要。